

『美しい森林づくり推進国民運動』

古都を彩る森林景観づくり ～ 京都伝統文化の森林推進協議会 ～

京都市内の東山風景林は、多くの社寺仏閣を懐に抱える国有林であり、世界文化遺産の背景林として、また、日本庭園の借景として、日本人はもとより海外からの観光客からも愛される森林となっています。

しかしながら、昭和50年代に猛威をふるった松枯れと、景観保全のための禁伐により、東山は、アカマツとコナラを主体とした明るい森林から、常緑樹であるコジイが上層を占める暗い森林へと変化してきています。

近畿中国森林管理局では、有識者の意見を踏まえ、コジイの抜き伐りや落葉広葉樹・アカマツの植栽により、四季折々の彩りがある森林や、古都京都らしい松のシルエットがある森林に復元するなど世界文化遺産に貢献する森林づくりを進めています。

このため、「京都伝統文化の森推進協議会」と京都市と緊密な連携の下に、地域の合意形成とモニタリングの体制を整備し、一般市民や民間企業等の参画を得ながら東山国有林での古都京都を彩る森づくりを一層強力に推進していきます。

知恩院の前から望む東山国有林



1932年4月撮影

〔アカマツ、モミヤコナラなどの落葉広葉樹を主体とする森林〕



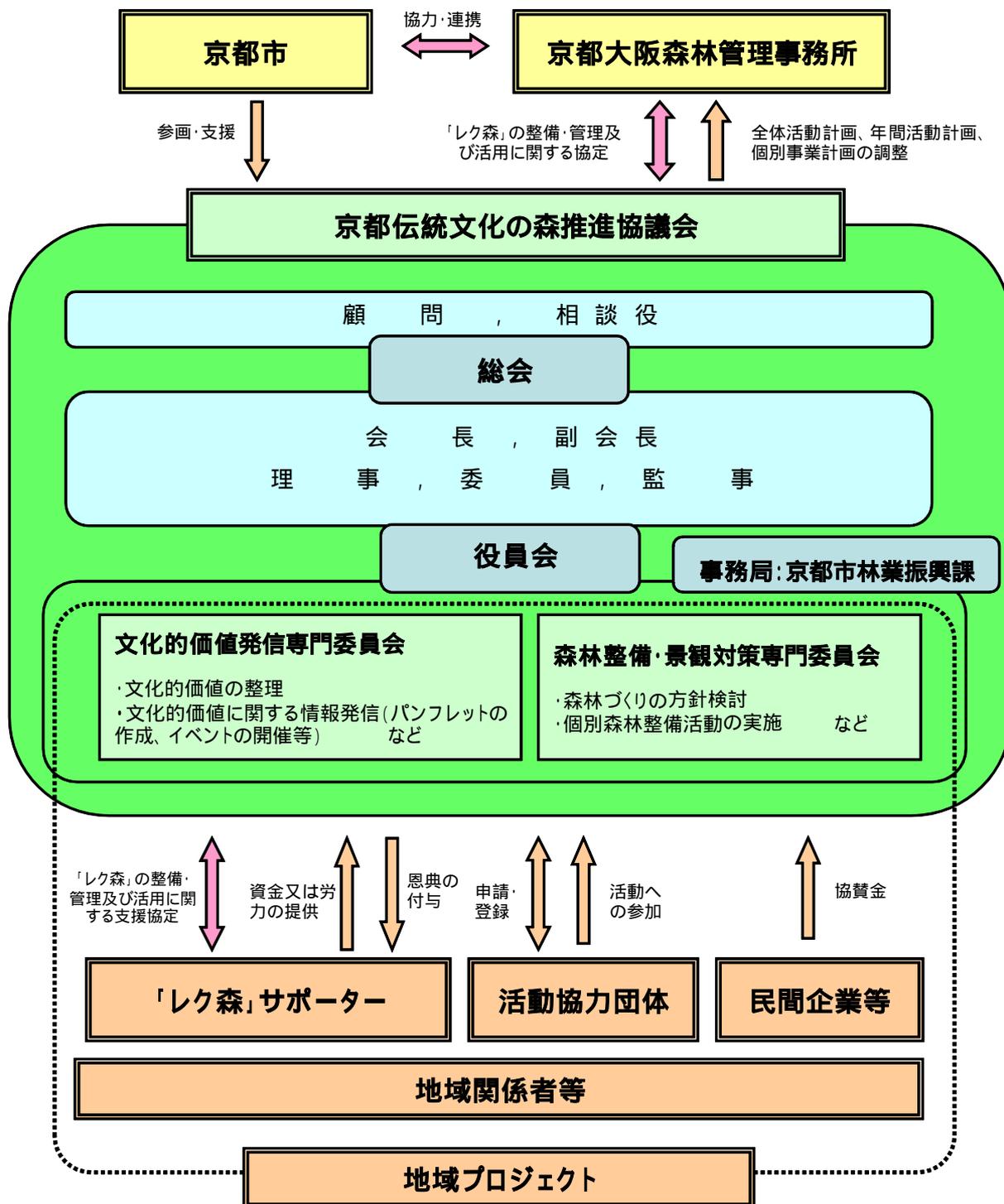
2006年12月撮影

〔コジイなど常緑広葉樹を主体とする森林〕

京都伝統文化の森推進協議会

京都市、NPO法人、学識経験者などが構成員となり平成19年12月26日設立。文化的価値発信事業として、パンフレットの作成やイベントの開催を行うとともに、森林整備・景観対策事業として、長期的な森林づくりの方向を議論しつつ、具体的な森林整備活動を実施していく予定です。

「京都伝統文化の森推進協議会」イメージ図



「東山風景林」位置図

